

# 八幡市 歴史的資源を活用した文化観光まちづくり未来戦略策定事業 「未来戦略ワークショップ」実施報告

令和5年2月21日(火)に「歴史的資源を活用した文化観光まちづくり未来戦略」の素案の説明と、意見収集を目的としたワークショップを開催しました。

## 2. ワークショップ意見

### ワークショップ概要

■日時：令和5年2月21日(火) 午後3時～4時30分

■場所：八幡市役所5階 会議室5-2

■参加者：ワーキングチーム 11名  
(石清水八幡宮 4名、東高野街道 7名)  
公募市民 8名 計 19名

#### ■内容

1. 歴史的資源を活用した文化観光まちづくり未来戦略（素案）の説明  
素案の説明への質問
2. ワークショップ（以下の2つのテーマへの意見収集）
  - ①コンセプト「神仏習合の聖地」を市民に広げる方法
  - ②男山展望台の新・空中茶室創造での最初の取組
3. 意見共有

### 1. 素案の説明および質問

ワーキングチームのメンバーや公募市民に向けて、未来戦略素案の説明を行い、質問を受けて回答しました。



▲素案説明の様子



▲ワークショップ(意見共有)の様子

#### A グループ

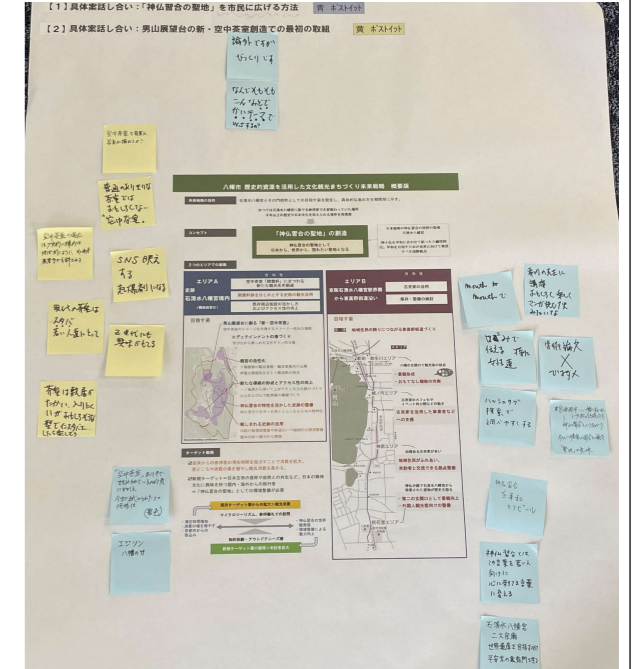
##### ①「神仏習合の聖地」を市民に広げる方法

- ・専門家の先生に面白く講演会で伝えてもらう。漫画で読む歴史など。
- ・「宗教都市八幡、神仏習合とのつながり」「今の八幡宮の神仏習合の動き」「『聖地』の意味」を伝える。
- ・神仏習合より平和をアピールしたほうがいい。「神仏習合≒平和をアピール」
- ・神仏習合とは。若者向けに心に刺さる言葉に変えた方がいい。
- ・学术论文ではダメ。mouth to mouth で伝える。 ・口コミで伝える。特に女性に向けた。
- ・ハッシュタグ検索で調べやすくする。 ・エジソンと八幡の竹をPRする。
- ・石清水八幡宮が(伊勢神宮と)二大宗廟 平安京の裏鬼門を守る。(世界遺産を目指すのか?)

##### ②男山展望台の新・空中茶室創造での最初の取組

- ・現代の茶室はスタバ。茶室は敷居が高い(きちんと着物着て入るような)。  
手軽に入れるスタバのイメージで、面白そうな形の空中茶室にして、「インスタ映え」したら楽しそう。
- ・普通のありきたりな茶室では面白くない。“空中茶室”
- ・空中茶室を背景に写真が撮れるか? ・「SNS映えする」と起爆剤になる。
- ・Z世代にも興味を持てるもの。
- ・空中茶室の復元をするなら、当時と同じような形で。(その場合、元の場所での復元ではなく、展望台でも許される。)

その他意見 ・なぜそんな大きいテーマ(神仏習合)でワークショップをやるのか。  
・「空中茶室」ありきで進められているのが気にかかる。いままで試みられたことの総括は。



#### B グループ

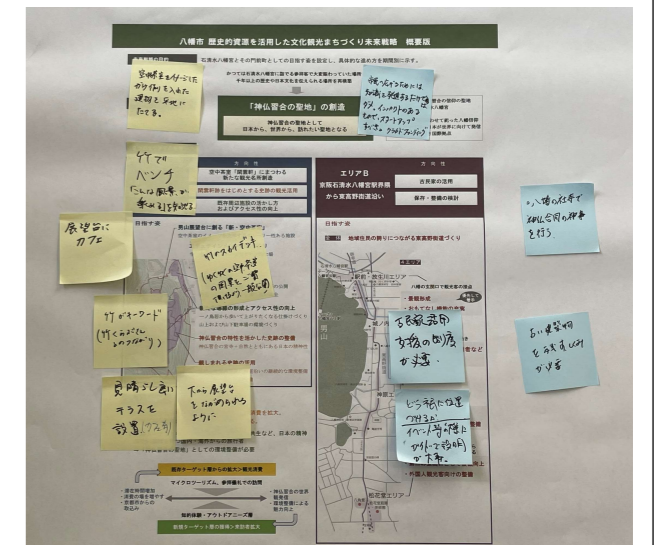
##### ①「神仏習合の聖地」を市民に広げる方法

- ・市民に広げるためには、知識を発信するだけではダメ。  
インパクトのあるものでスタートアップすべき。クラウドファンディングなど。
- ・八幡の神社で神仏合同の神事を行う。
- ・イベント等の際にガイドで説明が大事(どう市民に位置付けるか)。
- ・古い建築物を残す仕組みが必要。

##### ②男山展望台の新・空中茶室創造での最初の取組

- ・展望台では竹がキーワード(八幡たけくらぶとのつながり)。
- ・竹でベンチを「こんな風景が楽しめる」を知らせる。
- ・展望台にカフェ、竹のスカイデッキをつくる。  
⇒がっつりとした建築物が出来ないのであれば、ゆくゆくできる閑雲軒からの景色を竹の構築物で先取り公開する。
- ・見晴らしの良いテラスを設置(カフェ有)。
- ・空中茶室をイメージした懸け造りを取り入れた建物を平地に建てる。
- ・下から展望台を眺められるように。

その他意見 ・古民家活用支援の制度が必要。



## C グループ

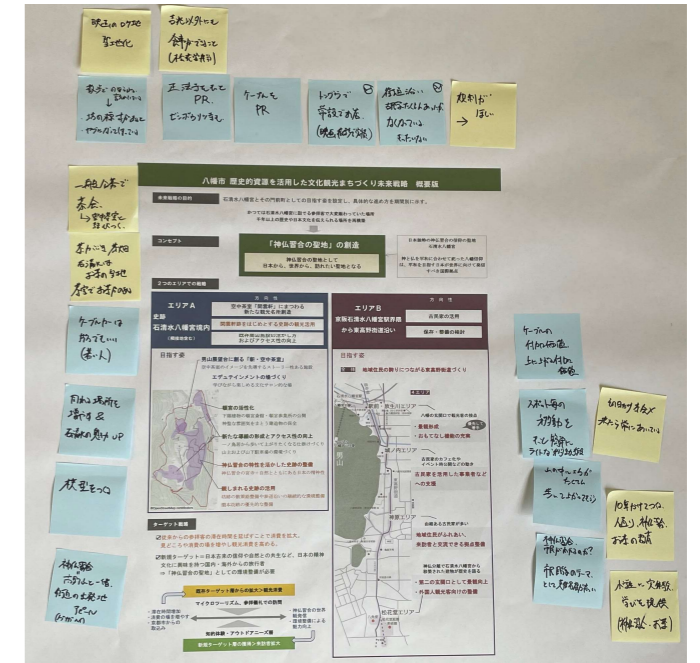
### ①「神仏習合の聖地」を市民に広げる方法

- ・善法律寺も PR を一緒にする。
- ・周れる場所を増やす。魅力アップ。
- ・山の中に坊跡がたくさんある。歩いて上がってもらう（若い人はケーブルカーは片道でもいい）。
- ・「神仏習合」を市民がわかるのか。市民目線のテーマとして難易度が高い。
- ・頓宮で常設のお店をする（映画撮影で実績）。
- ・神仏習合、高野山と街道の出発地をアピール。
- ・模型を作る。坊の標識があると良い（現状は藪）。
- ・スポットごとの移動をもっと簡単に。ライトな移動手段。

### ②男山展望台の新・空中茶室創造での最初の取組

- ・小学生に学びを提供。  
⇒世界中で日本の漫画がブーム。八幡の今の幼稚園児やそのお母さん方に、お茶のことを学び、体験する場を。  
5年後10年後にもっと大きな波及効果がある。
- ・10年かけて作る人通り、神仏習合、お茶の教育(コンセプト)。
- ・一般公募で茶会。
- ・映画のロケ地を聖地化。

- その他意見**
- ・ケーブルで上がる付加価値。
  - ・街道沿いに古民家がたくさんあったがなくなっている。もったいない。東高野街道には、規制が欲しい。



## D グループ

### ①「神仏習合の聖地」を市民に広げる方法

- ・神仏習合→神も仏も寄ってたかって住む。  
⇒神も仏も寄ってたかってまちづくりをやっていこうという考え方。  
一人がやるのではなく、みんなでやっていくことが大切。  
神仏習合という言葉はわかりづらいという意見もあるが、「神仏習合といえば八幡」というところまで高めていく。
- ・「神仏習合=八幡」というキャッチコピー。
- ・市民だより、HPで継続したPR。イベントをする。
- ・訴求力を高めるイベントをする。
- ・裏鬼門を前面に(鬼の後ろ姿のイラスト付)。
- ・八幡の風景を入れた映画をつくる。→その映画のタイトルの聖地をつくることになる。
- ・松花堂昭乗の俳句・東高野街道の俳句を、見るだけではなく投稿できるようにする。
- ・これまでのイベント(カラス型飛行器、ひな祭り、俳句の提出等)をリメイクという手法も考える。
- ・地域ごとの活動、行事、市民への共有。
- ・八幡でしか見られない →空中茶室。
- ・大きな一体化したイベントづくり。
- ・体験できるもの。
- ・「神仏習合」という言葉になじみがない。「神仏習合」より「市民習合」。

### ②男山展望台の新・空中茶室創造での最初の取組

- ・展望台の絶景を PR。
- ・市民からやってほしいイベントテーマを募集する。
- ・市民参画の取組。
- ・わかりにくい。第一印象や景観を重視する。
- ・若い人、働いている人への情報が少なすぎる。
- ・小学校教育で擦り込む。
- ・SNSで発信したくなるような仕掛け。
- ・自然環境も生かして。
- ・空中茶室がわからない。なじみがない。
- ・シン空中茶室(表記方法)。
- ・継続できるイベント。
- ・周辺環境向上。
- ・取り組む市民は高齢者が多い。

- その他意見**
- ・竹炭(八幡の竹)→焼く窯 竹炭販売。

